

待望の  
第一弾!

戦後日本の間に迫るドキュメンタリー映画

放射線を浴びた

# X年後

36歳の若さで亡くなった父  
半世紀前、太平洋核実験を目撃した海の男たち  
彼らは「被ばく者」だったのか？

思いは風化しない

伊東英朗 監督作品

ナレーション:鈴木省吾 製作著作:南海放送

協力:日本テレビ系列 NNNドキュメント

2015年/86分/16:9/カラー/日本ドキュメンタリー

映倫 G <http://x311.info>



# これは、遠い時代・遠い場所の話ではなく、 私たちの『X年後』の物語である。

終戦直後の1946年。太平洋上で、米国による核実験が始まった。

しかし多くの漁船が、その後100回を超える実験期間中も、近海でいつも通り操業を続けていた――。

闇に葬られたビキニ水爆実験の真相に迫る前作『放射線を浴びたX年後』から3年。

高知県室戸市ほか各地での継続取材は、新たな展開を迎えていた。

安全や核をめくって国のあり方があらためて問われる今、かつて日本の繁栄を支えた海の男たちのメッセージに、  
地方TV局のディレクターが迫った渾身のシリーズ第二弾!



「私の父は、なぜ死んだのか？」  
半世紀前の太平洋核実験、  
室戸の漁師たちが伝える  
無言のメッセージとは――？

東京で広告代理店を経営する川口美砂さん、59歳。故郷である高知県室戸市で、映画『放射線を浴びたX年後』を観たことがきっかけで、元漁師だった父の早すぎる死に疑問を抱き始める。当時「酒の飲みすぎで早死にした」と言われた父。本当にそうなのだろうか？ 高知県南国市在住の漫画家、大黒正仁さん（ペンネーム：和気作）代表作「女帝」などもまた、映画との出会いがきっかけとなって父の死に疑問を抱く。愛する父への強い思いが、二人を動かし始める。

一方、取材チームは放射線防護学の専門家と共に、1950年代当時、雨水の中に高い放射性物質が測定された沖繩、京都、山形を訪れ、独自に土壌調査をおこなう。民家の床板を外し、半世紀ぶりに現れた土。遠く離れた太平洋でおこなわれた核実験は、今も日本列島に影響を及ぼしているのだろうか？

元漁師たちの証言、破られた船員手帳、厚労省への情報開示請求――。日本列島を揺るがした巨大被ばく事件から半世紀を経た今、決して消え去ることのない「被ばく」の傷跡が、徐々に明らかに

## 太平洋核実験とは

米国が1946年から1962年まで、中部太平洋のマーシャル諸島ビキニ環礁やクリスマス島、ジョンストン島などで行った一連の核実験(計100回以上)。1954年3月1日に爆発させた「ブラボ」は広島に落とされた原爆の1千倍以上の破壊力がある。丸(乗組員23人)が被ばく。同年9月、無縁長の久保山重吉さんが死亡したことで、日本全国に知れ渡った。

## 今作までの道のり

前作『放射線を浴びたX年後』は、ローカルTV局・南海放送(愛媛)が8年にわたる取材の集大成として公開した映画。その原型となる番組は、日本テレビと系列29局がつくる【NNNDテレビ】でたびたび全国放送され、話題を呼んだ。映画公開から3年が経過する今なお全国各地で映画上映が続くなか、監督の伊東は「これはゴールではない。事件を解明したい」と取材を継続。その思いはテレビ放送や第一作にとどまらず、今回の第二弾公開へと結実した。

講談社  
同名書籍販売中!

ナレーション：鈴木保奈美 監修：伊東英剛 録音：田内登美子 美術：大西謙司 チーフプロデューサー：長瀬英夫 プロデューサー：小倉健嗣  
構成：日笠昭彦 脚本：伊東英剛 音楽：菅野よう子 音響効果：斎藤祐司 特別協力：ニガタ株式会社 協力：日本テレビ系列 NNNドキュメント  
製作著作：南海放送 宣伝協力：ウッキー・プロダクション 宣伝美術：成瀬堂 映像協力：日本ドキュメントフィルム  
写真協力：徳津市教育委員会(徳津市史民館資料館) 共同制作：琉球新報/沖縄タイムス 2015年/86分/16-9/カラー/日本ドキュメンタリー

放射線を浴びた  
X年後 2  
http://x311.info

【第一弾「放射線を浴びたX年後」自主上映申込受付中】 お問い合わせ先：ウッキー・プロダクション(徳田) TEL:03-5213-4933 FAX:03-6800-3686 Mail:yus@solid.ocn.ne.jp